

令和5年度 岡山県立岡山朝日高等学校 学校評価書

本年度の具体的な学校経営目標	番号	分掌	本年度の目標を達成するための各分掌ごとの重点目標	重点目標を達成するための具体的計画	具体的計画の達成状況についての評価基準(数値目標)	中間期の達成状況(実績と成果等)	中間評価	年度末の達成状況(実績と成果等)	年度末評価	学校経営目標ごとの総合評価
1 質の高い学習指導と高い志を抱かせる進路指導の充実	(1)	進路指導課	・生徒一人ひとりに「いかに生きるか」を考えさせた上で、その能力・適性を最大限発揮させる「入るべき大学」を目指させ、高い志をもって社会に貢献し、大学や大学の向こう側の社会で生き抜いていく力の基礎を養成する。	・進路教養講座・講演会・ガイダンスをできるだけ対面実施とし、生徒にとってより有意義な機会とする。 ・授業改善、新課程入試を見据えた先進校学校訪問(学力向上委員会共催)および研修の充実。	・進路講演会や進路教養講座の生徒向け事後アンケートで満足度について肯定的回答が80%以上。 ・学校評価アンケート(生徒10)「朝日高校は進路を考える機会や適切な情報を提供している」の肯定的回答が90%以上。 【R4:93.4、R3:96.5、R2:93.1[%】	・生徒向け事後アンケート「自分の進路や生き方などを考えるうえで参考になった」の肯定的回答89.2% (「大変」59.7%、「少し」29.5%)	A	・進路教養講座の満足度は高かった。 ・学校評価アンケート(生徒10)「朝日高校は進路を考える機会や適切な情報を提供している」は肯定的回答が91.8%であった。 ・県外先進校学校訪問は無かったが、予備校等主催の研修および研究会には対面・リモートを含めて複数名が参加した。	A	B
	(2)	教務課	・各教科や課・室と連携し、新教育課程への対応を行うとともに、学術探究系などの類型の効果的な運用を図る。	・教育課程委員会を各学期1回程度行い、また他校等の情報収集を行い、新学習指導要領及び大学入試等をふまえた教育課程の修正を図る。 ・各教科や課・室と連携して、学術探究系の教育活動の効果的な実施、及び、生徒の適切な類型選択を支援する。	・学校評価アンケート(生徒6)「朝日高校では、興味・関心、適性・進路に応じて、科目・コースを選択することができる」の肯定的回答が85%以上。 【R4:88.8、R3:95.9、R2:93.6[%】	・教育課程について、教育課程委員会、運営委員会、職員会議等で概ね1ヶ月に1回、情報交換・協議を行った。教育課程上の不備を修正できた。 ・新たな学習内容、類型選択や科目履修、講座編成等について引き続き検討する。 ・類型選択については、教科や該当学年と協議し、生徒への説明資料等の改善ができています。 ・従来からある類型と学術探究系のあり方について教員間で共通認識を持ち、生徒が適切に類型選択をできるような体制作りが課題である。	B	・学校評価アンケート(生徒6)「朝日高校では、興味・関心、適性・進路に応じて、科目・コースを選択することができる」は肯定的回答が88.5%で昨年並みであった。 ・大学入試科目の変更に合わせて、教育課程委員会、職員会議を経て、教育課程を修正した。取り組むべき課題があることを認識できた。 ・類型選択、科目選択の指導方法は改良されたが、当該学年だけでなく学校全体で検討していくことが課題である。	B	
	(2)	学力向上推進室	・生徒の学力向上のため、教員の授業力の向上を図る。	・室の業務マニュアルを完成させ、授業力向上に向けて効果的な取り組みを推進する。 ・授業アンケートについて、Chromebookを用いた手法改善を行い、より正確な授業評価を各教員にフィードバックする。	・OJT通信(各教科科目のICT教育の実践紹介を含む)の発行が年3回以上。 ・授業アンケートにおける授業満足度(4件法)の生徒評価のミスの発生数が5%以下。 ・学校評価アンケート教職員(8)「授業力向上のための研修や教員相互の研修が積極的に行われており、内容や方法について改善している」の肯定的回答が90%以上。	・OJT通信は予定通り発行できており、連絡事項の徹底等に役立っている。 ・授業アンケートは新任の先生について1学期末実施。2学期末の全教員(常勤)に対しての実施準備が予定通りに進行している。	B	・OJT通信は予定通り年3回(4、6、10月)発行できた。 ・授業アンケートは1学期末は新任者に、2学期末は全教員(常勤)に対して実施できた。 ・授業アンケートの入力フォーマットの改善により、生徒の入力ミスの発生数を大幅に改善できた。ただし、入力フォーマットの人為的な構成ミスによりサンプル数が減少した点が反省材料である。	B	
	(3)	図書課	・生徒の読書活動を支援し、文化的素養の涵養を図る。 ・探究的学習や、「主体的・対話的・深い学び」のための、生徒の基盤づくりを支援する。	・生徒への良書紹介および読書会LHRを充実させる。 ・図書館教養講座を充実させる。 ・図書委員を中心に、外部との交流を図る。 ・蔵書や視聴覚機器等の充実を図り、学習環境を整備する。	・図書館貸出冊数(4月～12月)5,000冊 【R4:4,092、R3:4,860、R2:5,023、R1:4,737[冊]】	・図書館貸出冊数(4月～9月21日現在)1,339冊 【参考】9月下旬現在分 R4:2,287冊、R3:3,422冊、R2:3,719冊 ・高教研主催、県立図書館共催の「でーれーBOOKS」10周年記念図書委員会交流会に参加した(8月)。	B	・図書館貸出冊数(4月～12月)は2,963冊であった。昨年度からさらに1クラス減った影響はあるものの4年連続で減少し、目標を大きく下回った。次年度は読書の啓発活動(読書イベントを含む)をさらに進めていきたい。 ・図書館教養講座は、俳句講座と相対性理論の2講座のみであった。 ・11月から12月にかけて、県立図書館のティーンズコーナーの展示を行った。図書委員の外部との交流は、例年以上に活発に行えた。 ・司書の先生や事務室の尽力により、机の更新など、施設の充実も徐々に進めることができた。	B	
2 自主自律、自重互敬の精神の育成と社会性の涵養	(1)	生徒課	・教職員全体で本校の伝統的な教育理念を共有し、自主自律・自重互敬の精神を涵養できるよう、生徒を支援する。	・校内規定の見直し、提案等、執行部を中心とした生徒会活動や委員会活動に、生徒が意欲的、主体的に取り組める環境を整備する。 ・創立150周年への機運を醸成し、朝日祭、球技大会等の学校行事への取り組みを通して、自主自律・自重互敬の精神を涵養できるよう支援する。	・学校評価アンケート(生徒2)「朝日高校では自重互敬の精神を基本として、品性を高めたり、思いやりの心を育てる指導がなされている」の肯定的回答が85%以上。【R4:88.6、R3:95.4、R2:89.9[%】 ・同(教職員2)「朝日高校では自重互敬の精神を基本として、品性を高めたり、他人を思いやる姿勢が高揚されている」の肯定的回答が85%以上。 【R4:81.0、R3:88.3、R2:89.2[%】	・昨年度からの取り組みにより、「生徒心得(服装規定)の改訂」を4月の生徒総会で周知させ、施行に至った。 ・朝日祭では、生徒会執行部の新たな取り組みや3年生の模擬店の復活などにより、充実したものを実施できた。	A	・学校評価アンケート(生徒2)「朝日高校では自重互敬の精神を基本として、品性を高めたり、思いやりの心を育てる指導がなされている」の肯定的回答は87.5%であった。 ・同(教職員2)「朝日高校では自重互敬の精神を基本として、品性を高めたり、他人を思いやる姿勢が高揚されている」の肯定的回答は83.6%であった。 ・「生徒心得」の改訂と朝日祭の充実した取り組みにおいて、生徒会執行部の誠実で真摯なリーダー性の発揮とともに、生徒全体の自律した活動は素晴らしいであった。	A	
	(2)	保健・厚生課	・学校生活全般における、生徒の美意識を涵養する。	・環境委員会の活動が活発化し、その取り組みがクラスに投げかけられ、全校生徒の美化意識を高められるよう支援する。	・学校評価アンケート(生徒3)「朝日高校は、生徒に自主自律を旨とした振る舞いと身だしなみの自覚を促す指導をしている」の肯定的回答が85%以上。 【R4:89.1、R3:94.1、R2:94.9[%】	・トイレの清掃状況や掃除用具の整備状況の点検を環境委員が先頭に立って行なったことにより、校内美化に対する生徒の意識が高まっている。	A	・学校評価アンケート(生徒3)「朝日高校は、生徒に自主自律を旨とした振る舞いと身だしなみの自覚を促す指導をしている」の肯定的回答は90.8%であった。 ・環境委員の呼びかけ等により、以前よりも校内美化に対する生徒の意識が高まっている一方で、清掃活動を工夫する余地がある。	B	
	(2)	保健・厚生課	・学校全体の防災意識を涵養する。	・学校防災マニュアルの見直しを行う。 ・実際の災害時を想定した具体的な行動を教職員、生徒がとれるような避難訓練を実施する。	・学校評価アンケート(生徒16)「朝日高校は、防災安全教育に努めている」の肯定的回答が85%以上。 【R4:86.4、R3:91.5、R2:91.0[%】 ・同(教職員22)「朝日高校は、防災安全教育や研修などを行うことで、生徒・教職員の防災意識の高揚に努めている」の肯定的回答が85%以上。 【R4:91.3、R3:88.3、R2:89.2[%】	・学校防災マニュアルの見直しを適宜行っている。 ・11月17日に実施予定の防災訓練では、コロナ禍以前に実施していた三點幼稚園との共同開催を計画しており、その準備を進めている。	B	・学校評価アンケート(生徒16)「朝日高校は、防災安全教育に努めている」の肯定的回答は82.9%であった。 ・防災訓練当日は雨天のため、共同開催は中止したが、地震を想定した訓練を実施した。 ・12月に県教委主催の地域防災ボランティアリーダー養成研修会に防災委員10名が参加し実践力を身につけた。 ・同(教職員22)「朝日高校は、防災安全教育や研修などを行うことで、生徒・教職員の防災意識の高揚に努めている」の肯定的回答は89.1%であった。	A	
(3)	教育相談課	・温かく受容的な学校風土の形成を推進するため、自他ともに思いやりのある集団の形成、人間関係づくりの支援を行う。	・ピア・サポート研修、Hyper-QU、いじめ・悩み調査、LHRの実施を通して、集団理解、他者理解・自己理解を深める活動、調査を行う。 ・専門医、SC、SSWと連携し、専門的な助言を参考にし、生徒(保護者)に必要な助言、支援を行う。	・学校評価アンケート(生徒12)「朝日高校では、悩み・困ることがあれば、さまざまな機会に先生に相談することができ、対応してもらえる」の肯定的回答が90%以上。 【R4:93.1、R3:94.1、R2:93.1[%】 ・学校評価アンケート(生徒13)「朝日高校では、いじめの予防と早期発見に努め、人権に関わる問題に毅然とした対応をしている」の肯定的回答が90%以上。 【R4:86.0、R3:89.6、R2:88.6[%】	・5月の1日HRに向けて、1・2年各クラスの担当生徒にレクレーション講習会を実施。当日60名以上の生徒が参加し、レク活動を積極的にリードし、クラスの人間関係づくりに貢献した。 ・Hyper-QUを1年生を対象に行った。また「いじめ・悩み調査」を全学年で実施し、分析と情報共有をすすめている。 ・専門医やSCによるカウンセリングでは、生徒、保護者、教員に適切なアドバイスや多様な視点等をいただいている。特に難しい案件についてはSSWに協力をいただきながら、それぞれの生徒に対する支援を行っている。	A	・学校評価アンケート(生徒12)「朝日高校では悩み・困ることがあれば、さまざまな機会に先生に相談することができ、対応してもらえる」の肯定的回答は91.1%であった。 ・学校評価アンケート(生徒13)「朝日高校ではいじめの予防と早期発見に努め、人権に関わる問題に毅然とした対応をしている」の肯定的回答は88.3%であった。 ・悩み等を抱える生徒について、専門医やSCによるカウンセリングと、SSWによる面談を活用し、関係者間でしっかりと協力しながら、それぞれの生徒への継続的な支援を進めている。	A		

令和5年度 岡山県立岡山朝日高等学校 学校評価書

本年度の具体的な学校経営目標	番号	分掌	本年度の目標を達成するための各分掌ごとの重点目標	重点目標を達成するための具体的計画	具体的計画の達成状況についての評価基準(数値目標)	中間期の達成状況(実績と成果等)	中間評価	年度末の達成状況(実績と成果等)	年度末評価	学校経営目標ごとの総合評価
3 リーダーシップを発揮して新たな社会を創造し牽引することができる、未来に貢献する人材の育成	(1)	教口推進バール	・生徒の興味・関心をグローバルな観点から広げ、かつ深化させ、将来は国内にとどまらず活躍できる人材の育成を目指す。	・ウィズコロナ体制を踏まえながら、イギリス研修の再開を目指す。 ・異文化との交流の機会、またその準備段階としての英語ディベートなどの機会の提示や参加の奨励をする。	・各行事の事後アンケート等で満足度について肯定的回答が80%以上。	・イギリス研修を3月に実施予定(定員34名に対し72名が申込。10月に抽選。) ・県主催の「Stanford G mix」に5名参加 ・スタンフォード大学による「e-Stanford」に1名参加 ・グローバル教養講座(9月27日実施)	A	・岡山県教育委員会企画の春休み中のカナダへの短期留学に本校から5名が参加した。 ・AIG高校生外交官訪米プログラムに1名が応募した。 ・イギリス研修の参加者決定方法、参加できなかった生徒への手当、友好提携校の生徒との交流の復活が課題である。	A	A
	(2)	生徒課	・生徒が、勉学、学校行事及び部活動等に生き生きと取り組み、「文武両道」を貫くことで、未来を開拓する力を身につけられるように支援する。	・教職員全体で学校行事や部活動による学びの意義を理解し、勉学との両立に励まさせる。 ・生徒の自由な時間を侵害しないようにするという共通理解を持ち、朝日祭等の学校行事の準備や課外活動に取り組む放課後等の活動時間を確保できるように環境を整える。	・学校評価アンケート(生徒5)「朝日祭などの学校行事は充実しており、積極的に参加できる」の肯定的回答が90%以上。 【R4:94.9、R3:97.0、R2:95.9[%]】 ・同(生徒11)「部活動などの課外活動が盛んで、自主的・積極的に活動できる」の肯定的回答が90%以上。 【R4:94.1、R3:93.5、R2:91.8[%]】 ・同(教職員15)「部活動等の課外活動に生徒が積極的に参加し、活動が活発になるように、さまざまな面で支援している」の肯定的回答が90%以上。 【R4:96.6、R3:93.3、R2:90.8[%]】	・部活動の活動時間確保など活発な部活動を行えるような環境を保障できた。多数の全国大会出場を含め、大会等での素晴らしい実績を取っている。 ・朝日祭の準備期間が過去2番目に短かったが、生徒たちの工夫と集中により、達成感・充実感を持つことのできる内容となった。	A	・学校評価アンケート(生徒5)「朝日祭などの学校行事は充実しており、積極的に参加できる」の肯定的回答は95.7%(「よくあてはまる」は71.5%)であった。 ・同(生徒11)「朝日高校は部活動などの課外活動が盛んで、自主的・積極的に活動できる」の肯定的回答は92.4%であった。 ・同(教職員15)「朝日高校は部活動等の課外活動に生徒が積極的に参加し、活動が活発になるように、さまざまな面で支援している」の肯定的回答は90.9%であった。 ・教職員全体で部活動の意義を理解し、学業との両立を励ますような関わりができた。 ・今年度は規制や制約が圧倒的に少なくなった中で生徒も十分な活動に打ち込み、「文武両道」の大変さとその意義を体感することができたと思われる。 ・大会等で素晴らしい実績を収めた部活動が多かった。	A	
	(2)	資料館	・生徒の自主的・自律的な学びを支援し、生徒の文化・芸術分野における才能・個性を伸ばす。	・創立記念日にあわせて、特別展や岡山朝日文芸作品コンクールを開催し、その広報活動を強化する。	・文芸作品コンクールへの出品数が計35点以上。 【R4:38点】	・コンクールの締め切りは10月下旬であり、現在募集中である。 ・朝日祭以降、作品募集の広報は強化する予定。特別展は11月に実施予定である。	B	・クラス減により、出品者の多数を占める1・2年の生徒数が減少する中で出品数は34点であった。小説の出品数が7点となり、読書感想文にも出品が2点あった。	B	
	(2)	学術探究推進室	・2年生、1年生の探究的な学習の取り組みを推進する。	・2年生の学術探究系の取り組みを推進し、個々の生徒の活動例を蓄積する。 ・1年生の「総合的な探究の時間」の改善を図る。	・2年生：学術探究系選択者が希望する活動に取り組むための調整を実施し、記録できる。 ・1年生：授業プログラム改善により効果的、効率的に実施できた活動が80%以上。 ・年度末の振り返りや授業アンケートで生徒の肯定的な回答が80%以上。	・2年生：物理チャレンジ、化学オリンピック、販促会議コンベンなど活動にチャレンジし、授業の調整、活動の記録を行うことができた。 文系分野の生徒に活動を呼びかけているが活動が少ないのが課題。 ・1年生：学術探究活動を1学期に1度行うなどカリキュラムを改善中。	B	・理系分野では、化学オリンピック世界大会候補に選ばれた者1名、化学グランドコンテスト全国大会出場2名、ロボットアイデアコンテスト全国大会出場1名、科学の甲子園全国大会出場8名などの成果をあげた。 ・文系分野では、特別目立つ成果をあげてはいないものの、自身の活動と学習に取り組んだ。 ・1年生の学術探究では、担当者間でサポートなども行うことができ、共通理解のもと実施がスムーズになってきた。年度末振り返りは2月末に実施予定である。	B	
	(3)	教育相談課	・ピア・サポーターの育成を進め、生徒間の親密な人間関係を築く支援を行う。	・ピア・サポート研修、LHRの実施を通して、集団理解、他者理解・自己理解を深めるとともに、他者支援のできる行動力を高める活動を行う。	・ピアサポート研修の参加生徒への事後アンケート等で満足度について肯定的回答が80%以上。	・ピアサポート研修会を7月24日、25日に実施した。参加生徒からの研修の振り返り(アンケート)では、否定的な回答はなく、全員から、多様な視点や示唆に富んだ内容を学べた、多くの発見や気づきがあった、など今後の学校生活に生かすヒントが得られた旨の意見がでた。 ・今後は保健委員以外の参加生徒の増加を目指したい。	A	・ピア・サポート研修の事後アンケートでは、参加生徒全員から肯定的回答が得られた。 ・ピア・サポートの活動を通して、生徒の視点からクラスの様子を把握する機会を得ることができた。今後も活動を継続しながら、保健委員を母体としたピア・サポーターをその他の生徒にも広げ、活動の広報に努めていきたい。	A	
4 ポストコロナにおける学校行事の充実とICT教育の推進	(1)	教務課	・ウィズコロナ体制を踏まえながら、ポストコロナにおいて生徒の学力・人間力を育成する授業・学校行事等を確実に実施する。	・課・室・館・学年・教科等の関係部署と情報交換を密に行い、コロナ禍の中で得た知見を生かすことで、ポストコロナにおいて、より効果的な学校行事を企画・運営する。	・実施目的や意義を再確認し、効果的でスムーズな実施を図ることができた学校行事が年間行事予定全体の80%以上。	・5月以降、コロナ禍以前に近い内容で授業や学校行事(生徒総会、1日HR、修学旅行、終業式、富士登山、朝日祭等)を実施できている。 ・7月終業式、9月始業式の熱中症対策が課題である。	B	・コロナ禍以前に近い内容で授業や学校行事(百人一首大会、スキー教室等を含む)を実施できた。実績は年間行事予定全体の95%以上であった。 ・感染防止、寒さ対策のため、2学期終業式の一部をリモートで行った。ただし、本校が「大講堂」での対面実施の頃から大切にしてきた式典の在り方や心構えに照らして検討することも今後の課題である。	A	
	(1)	連広携推進地域	・小・中学生とその保護者等に向けた広報活動を充実させ、本校の魅力の発信に努める。	・オープンスクールにおいて、校内見学の拡充、在校生からの発信の充実を図る。	・オープンスクールの参加者数(小・中学生)が400人以上。【R4:358人】 ・オープンスクールの参加者アンケートの満足度についての肯定的回答が80%以上。【R5新規】	・参加者数(小・中学生)は計706人。(小学生:36人、中学生:670人) ・アンケート「本日の説明は岡山朝日高校を知る上で十分な内容でしたか」の肯定的回答は99%。	A	・オープンスクールと学校説明会の対象を中学生から小学生までに拡大した。 ・オープンスクール等における在校生の活用場を拡充し、参加者から良い評価を得た。 ・塾など校外での学校説明会を計7回実施した。 ・説明会等での説明内容と担当者を拡充し持続可能性を高めた。 ・学校紹介動画を作成、公開した。 ・ホームページを適時更新できた。	A	
	(2)	ICT推進室活用	・1人1台端末の活用による質の高い学習指導を推進する。	・各教科と連携してChromebook等のICT機器を用いた学習指導例を共有し指導力向上を図る。	・12月までに10例以上を収録した学習指導例集を作成する。	・職員会議で実践事例を紹介する予定であったが、まだ紹介できていない状況である。今後、機を見て伝える予定である。	B	・Chromebook等のICT機器を用いた実践事例集を、12月の職員会議で共有することができた。各教科から29例の学習指導事例、その他から4例の実践事例があった。 ・文書中心の報告となったので、来年度は写真等を挿入したものを作成しようと考えている。	A	
5 教師自身が研鑽を積み、学び続ける集団となるための働き方改革の推進	(1)	ICT推進室活用推	・DX化により、校務の軽減・効率化を進め、教材研究や生徒理解のための時間的環境整備を図る。	・校務の軽減等が期待できる、自動採点システム等のアプリの有用性及び課題の検証を行う。	・採点支援システム「百問繚乱」を試行した教科が2つ以上。	・数学と理科で試行に取り組んでいる。 ・使用方法の研修会には10名以上の参加があり、興味を持っている教員も多数いるようである。	B	・採点支援システムは、数学、理科、地歴の3教科で試行されている。 ・他教科でも利活用に興味を持っている教員がいるので、来年度の利用を通して、活用の利点と使用上の注意点の蓄積、共有が期待できる。	A	
	(1)	管理職	・教職員の充実度や満足度の向上と健康の維持に向けた働き方改革を推進する。	・朝日ポータルサイトを整備し、教員研修を校内で受講できる等の利便性を向上させ、自己研鑽の機会拡充を図る。 ・業務改善につながる情報を定期的に発信し、時間外業務時間の削減を図る。 ・週休日の振替や勤務時間の割振り変更の活用を促進し、教職員の疲労蓄積の未然防止に努める。	・学校評価アンケート(教職員29)「この1年間を振り返って、この学校で教育することにより、自分自身が充実感や満足感をもつことができている」の肯定的回答が80%以上。 【R4:67.2、R3:80.0、R2:78.5[%]】 ・時間外勤務時間が前年比で5%以上減少。	・朝日ポータルサイトを適宜更新し、また、ポータルサイトからeラーニングに取り組むやすい環境を整備するなどして、研修機会の充実を進めている。 ・時間外勤務時間は、8月末時点で、前年比2.3%の減少となっている。	B	・学校評価アンケート(教職員29)「この1年間を振り返って、この学校で教育することにより、自分自身が充実感や満足感をもつことができている」の肯定的回答が78.2%であった。 ・時間外勤務時間は、12月末時点で、前年比3.3%の減少である。 ・改善は見られるものの、十分とはいえない。例えば、学校の業務をデジタル化する取り組みなどを進めることで、働き方改革をさらに支援したい。	B	